



## 教祖140年祭

If you do not follow the path of the Divine Model, there is no need for a Divine Model... There is no path but the path of the Divine Model.  
Osashizu, November 7, 1889

ひながたの道を通らねばひながた要らん。(略) ひながたの道より道が無いで。  
(おさしづ 明治22年11月7日)

ふしから芽が出る

ふしから芽が出る  
私たちは日々の生活の中で、病気(身上)になつたり、問題があり解決を望まれる事柄(事情)に出遭うことがあります。  
教祖は、身上や事情を「ふし(節)」と諭され、さらに「ふしから芽が出る」とお教え下さいました。  
天理教教典では、  
「いかなる病氣も、不時災難も、事情のもつれも、皆、銘々の反省を促される篤い親心のあらわれであり、真の陽気ぐらしへ導かれる慈愛のてびきに外ならぬ。」  
とあります。  
片山よ志本島大教会前会長様は、「身上・事情など、ふしは心の成人のためにあります。心調べをさせて頂きましょう。」さらに「神様は決し

て悪いようにはなさいません。」とお話しされていました。  
昨年、家族の一人にある事情をお見せ頂きました。そこで私は家族4人で談じ合い、「成つてくる姿はすべて人々を成人へとお導き下さる親神様のお計らいであると信じて、親神様にそれぞれ心定めをさせて頂こう」となりました。  
この心定めは、私たち家族の励みとなり、そのまま教祖年祭に向かう成人の歩みとなっています。  
教祖は、迫害の中も「ふしから芽が吹く」と仰せられ、驚き迷う人々を勇まし励まして連れ通られました。  
親神様の思召に心を沿わせ、真つ直ぐ道を歩ませて頂きましょう。

本島大教会布教部(晴)